

# 令和7年度 別府大学短期大学部 学長諮問会議 議事録

日時：令和7年8月23日（土）

13:00～15:38

場所：別府大学 1号館 2階 21・22 会議室

記録：岩本 瑚々（教務課）

学長諮問会議委員	額賀 寛	（大分市子どもすこやか部保育・幼児教育課長）
	宮川 久寿	（別府市教育委員会学校教育課長）
	足立 史歩	（大分県立杵築高等学校校長）
	緒方 雅子	（大分県栄養士会会長）
	大津 康司	（大分県私立幼稚園連合会副会長）
	神田 寿恵	（大分県保育連合会理事） 欠席
	田中 正樹	（大分県認定こども園連合会事務局長）
	西 謙二	（別府市商工会議所会頭）
	森田 展弘	（大分みらい信用金庫理事長）

学内出席者	友永 植	（別府大学短期大学部学長）
	後藤 善友	（副学長/学長補佐（教務担当））
	藤田 光子	（学長補佐（学生担当））
	伊藤 京子	（食物栄養科学科長）
	大田 亜紀	（初等教育科学科長）
	三宮 知恭	（専攻科長/FD 委員会委員長）
	伊藤 昭博	（就職委員会委員長）
	宇野 世史也	（大学事務局長）
	安倍 武司	（短大事務局長）
	佐藤 智久	（教務事務部次長）
	友永 絵美	（教務課長）
	佐藤 里香	（教務課主任）
	岩本 瑚々	（教務課）

計 21 名

（13:00）

冒頭に安倍短大事務局長より、開催にあたり配布資料及び本会議の開催趣旨の説明があった。

ついで、学長諮問会議委員と学内出席者の紹介があった。

(進行：安倍短大事務局長)

友永学長から、別府大学の教育及び研究についての協力へのお礼とこれまでは中期計画に沿った自己点検報告書により説明を行っていたが、今回は令和8年度に一般財団法人大学・短期大学基準協会の認証評価を受審するため、認証評価機関の基準に沿って説明していくとの挨拶があった。

ついで、安倍短大事務局長より、本会議議題の説明終了後に、学長諮問会議委員（以下、委員）からの意見・評価等をいただく形式で進行すると説明があった。

#### 議事（諮問事項）

##### （1）令和6年度学長諮問会議の報告について

安倍短大事務局長より、資料1【令和6年度別府大学短期大学部学長諮問会議議事録】に基づいて、昨年度の学長諮問会議において委員よりいただいた意見・評価について報告があった。

##### （2）本学の学生と教員の現状について

友永学長より、資料2【本学の学生と教員の現状について】に基づいて、本学の学生の在籍状況については減少しているが、短大の入学者は全国的に減少しており、本学の初等教育科については令和8年度の定員を20名削減すること及び国からの補助金については、全国297校中13位に位置しており財政運営は安定しているとの説明があった。

##### （3）令和6年度自己点検評価（令和6年度実績）について

友永学長より、令和8年度に一般財団法人大学・短期大学基準協会の認証評価を受審するため、今回は、同基準協会の自己点検・評価報告書の様式にもとづき令和6年度の自己点検評価書を作成したことの説明があった。

ついで、自己点検・評価の結果について次のとおり説明があった。

##### 1) 建学の精神、教育目的および3つのポリシーについて

友永学長より、資料3【令和6年度別府大学短期大学部自己点検・評価報告書】、資料4-1【別府大学短期大学部教育に関する3つのポリシー】に基づき、建学の精神と教育目的については、本学の建学の精神である「真理は我らを自由にする」は戦後の教育の方向性を示したものであるが、真理の探究が時代を超えた普遍性を備えているため、現在に至るまで本学の教育理念として受け継がれており、学校法人別府大学寄付行為と別府大学学則に明示していることの説明があった。

##### 2) 教育の効果等について

友永学長より、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）及び入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）の3つのポリシー

を堅持した教育を行い、その教育効果については、PDCA のサイクルを循環させるためのアセスメントを実施し、結果を評価しながら次年度の教育に活かしていくとの説明があった。

### 3) 教育の内部質保証について

後藤副学長より、資料3【令和6年度別府大学短期大学部自己点検・評価報告書】、資料4-2【別府大学短期大学部カリキュラムマップ】、資料4-3【別府大学短期大学部アセスメント・ポリシー】、資料4-4【ディプロマ・サプリメントについて】に基づき、卒業時に学生に学習成果が身についているかという観点からアセスメント・ポリシーを策定し効果を測定しているが、来年の認証評価後にアセスメント・ポリシーについて大きく見直して、効率化を図っていくこと並びに卒業生の評価について、ディプロマ・サプリメントを策定し教育効果を測定しているが、まだ取り組み始めたばかりであるため、今後は、卒業生や市民の皆様からご意見をいただき、内容を見直していくことの説明があった。

### 4) 社会貢献について

友永学長より、資料3【令和6年度別府大学短期大学部自己点検・評価報告書】に基づき、歴史的背景から地域社会の貢献を重要な使命とし、法人の寄附行為、学則においても地域社会に貢献する人材の養成を教育の目的に掲げているが、教育活動を通しての地域貢献としては、エッセンシャルワーカーや保育士、栄養士等の地域を底支えする重要な役割を果たすべき人材を毎年輩出し、卒業生や大分県内で働く栄養士を対象に支援講座等を開催していることの説明があった。

ついで、資料5-1【令和6年度主な別府大学・別府大学短期大学部地域連携事業の実績について】及び資料5-2【令和6年度地域の課題解決事業正課報告書】に基づき地域連携事業の実績について説明があった。

### 5) 教育課程および学習成果の獲得について

友永学長より、資料3【令和6年度別府大学短期大学部自己点検・評価報告書】に基づき、学生はシラバスで獲得できる能力や授業の評価方法を確認し履修登録を行い、学期の終わりに全科目の授業評価を実施し、本学はこの結果を基にした授業改善や、職業選択意識向上のためのキャリア科目の配置や実習先と連携した学外実習指導及びポートフォリオによる学期毎の振り返り等の様々な取り組みにより、学習成果を確認し教育にフィードバックしていることの説明があった。

### 6) 入学選抜について

友永学長より、資料3【令和6年度別府大学短期大学部自己点検・評価報告書】、資料6【令和6年度在学生の修学状況と入試制度について】に基づき、在学生の単位修得状況や退学者、除籍者、留年者の状況について調査、分析し、入学選抜の妥当性の検証をしたことの報告があった。また、入学選抜はアドミッション・ポリシーを具現化する業務のため大学の

校務における最優先業務と位置づけていると説明があった。

#### 7) 学生支援について

友永学長より、資料3【令和6年度別府大学短期大学部自己点検・評価報告書】、資料7-1【学生支援センター活動状況について】、資料7-2【学生満足度調査報告書（令和6年度実施分）】に基づき、多様な学生の入学に伴い、メンタルヘルスや就職指導については、クラス担任によるきめ細やかな学生指導や学生支援センターにより、学生の全般的な支援を行うための体制を整えているとの説明があった。

藤田学長補佐より、学生支援センターについては、悩みの早期発見から支援の開始が素早くできる点で非常に有効な支援の手立てであること並びに学生満足度調査については学生の回答から、良い評価が得られているが、成績評価の公平性や施設の充実等の意見も寄せられているため、今後の学習環境の整備にさらに努めていくとの説明があった。

#### 8) 進路支援について

友永学長より、資料3【令和6年度別府大学短期大学部自己点検・評価報告書】に基づき、学生の就職には、資格免許取得が重要な要件であるため、希望者全員が取得できるよう指導していること並びに就職試験の対策講座や面接指導、公務員対策講座、保護者との個別面談の実施を行っているとの説明があった。

伊藤就職委員長より、資料8-1【令和6年度別府大学短期大学部就職状況】、資料8-2【保護者のための就職ガイダンス】に基づき、具体的な就職状況及びどの学科も80%以上が資格を活かして就職しているとの説明があった。

#### 9) ICT教育について

後藤副学長より、資料3【令和6年度別府大学短期大学部自己点検・評価報告書】、資料9-1【「数理・データサイエンスAI教育プログラム」概要】、資料9-2【「数理・データサイエンスAI教育プログラム」に係る自己点検・評価書】に基づき、リテラシーレベルと応用基礎レベルについて説明があった。応用基礎レベルは昨年認定を取得し選択科目として開講していることから、履修率5%の目標に対して今年度の履修率が8%ほどであり目標を達成できたが、授業評価アンケートを踏まえて、数理・データサイエンスに学生の関心が高いとの報告があった。また、さらなる改善に向けて委員より意見をいただきたい旨の依頼があった。

#### 10) 高大連携について

友永学長より、資料3【令和6年度別府大学短期大学部自己点検・評価報告書】、資料10【令和6年度別府大学・別府大学短期大学部高大連携の実績について】に基づき、短大は90%が県内高校の出身であり、県内高校と密に連携を取っており、高校生を受け入れて大学体験の実施等の活動をしており、昨年度は、佐伯豊南高校、由布高校、三重総合高校、安心院高校と連携協定を結んだことの説明があった。

(14:30)

<休憩>

(14:40)

友永学長より、名簿の順番で委員より意見・質問等を伺いたい旨の依頼があった。

(○=委員、●=学内出席者)

○3点の意見が述べられた。

1点目、保育士の確保について、全国では保育施設の約8割が保育士等の人材不足であり、3割の施設が定員迄受け入れ出来ていない。大分市も同様の状況である。保育士の確保、魅力発信のために保育の仕事セミナーに多くの学生の参加をいただき感謝申し上げる。今後とも参加をお願いしたい。大分市も中期的な人材確保の観点から、中学生や高校生が保育士を職業として選択するための魅力の発信に努めていきたいと考えているので協力願いたい。

2点目、保育の人材育成について貴学の学生ではないが、保育実習において次のような報告があった。「実習生が園児を呼び捨てにし、園児に対してお前などといった言葉を使っていた。」保育の養成校においては、専門的な知識や技術の習得に加えて、子どもの尊厳を守るための人権感覚を身につける教育に一層取り組んでいただきたい。

3点目、学生の健康管理について、貴学の令和6年度実施された新入生を対象としたデートDVに関する研修会は大変評価できるものである。近年はSNSで犯罪実行役を務める、闇バイトが社会問題となっているため、学生に対してこのような啓発活動も重点的に実施していただきたい。

●保育士養成校として日々学生の資質能力向上のために努めている。実習時の言葉の乱れについて、実習指導のみならず全ての授業の中で、指導しているところである。今年度は特に挨拶や感謝の気持ちなど、社会人基礎力について改めて指導しており、実習の訪問指導に行った担当教員から、挨拶もできずごく前向きであると聞き、指導の成果が少しはでているかなと思う。

●人権感覚を持つということで、教員も学生に対して敬意をもって対応するといった行動の積み重ねを進めていきたい。大学・短大として人権教育推進委員会を設けており、毎年、講師を派遣していただき、人権教育を含む講演をいただいている。教育課程においても総合演習という科目を設けてその中で人権教育を行う枠組みを作っているため、今後ともそれは進めていきたい。また、闇バイトについて学生を集めて注意を促すような講演を行ったり、検証を行ったりしている。

また、中学校と高等学校も含めた形で保育士への関心の動機付けの取り組みがございましたら、是非とも協力させていただきます。

○マイスタープロジェクトに大変お力をいただいております、この取り組みは学生、我々にとっても有益なものであると感じているので、引き続き継続して実施願いたい。

また、授業評価について、私も教職の立場から学生とともに授業をつくっていく視点を常に持っており、市内の小中学校の先生方にも、振り返りで児童・生徒に評価をしてもらうことを伝えている。それが短大でやられているのは大変素晴らしいと思う。

一方、小中学校の現状として、先生方のメンタルの弱さや耐性力の弱さが目立つ。1年も経たずに職を離れる先生方が増えており、人手不足のためそれを補う先生もいないというのが現状である。貴大学のカリキュラムの中で、コミュニケーション力や主体性などの人間力がとても大事かと思う。そのような人間力をどのようなところで育てられているのかというのを伺いたい。また、昨年度から学生支援センターが立ち上がり学生の支援に力をいれていると聞いて安心し、ぜひ少しでも充実したものになるようお願いしたい。

●本学の様々な取り組み、特に授業評価について評価頂きありがとうございます。評価し、改善プランを立てて、それが実際に次の学期に実施される、これが一番理想的な形なので進めていく。

●専攻科は少人数のため、多くの課題を与えて、模擬授業を自分たちで作ってやる、それに対して学生が子ども役になって総合評価を行ったり、あえて困るような質問をしたりするよう指導している。現場により近い雰囲気で行うようにしている。また、保護者対応に関して、現場経験の教員が多いため、いろんな場面を作り、解決のために自分たちで話し合っていくというような体験を多くしている。

●学生支援センターの今後の充実に関して、今年活用している学生からの意見を聴取し、意見によってコーディネーターやクラスの先生に情報を共有し相談していくような流れを今作っており、学生が相談しやすい窓口になるよう今後とも充実させていきたい。

○相談窓口について、オンラインでのやり取りはあるのか。

●メールでのやり取りはある。

●来年度に向けての話であるが、支援の組織を統合させて学生総合支援機構という大きな組織を作り、どの窓口から入っても専門に対応できるようにつないでいく全面的な学生支援を企画して規程まで作り上げているところである。

○1点目、資料3の31ページのシラバスの授業時間外の学習時間の確保について、非常に各論になるため後日教えていただきたい。

2点目、資料3の40ページのテーマ基準2の入学者選抜について、資格検定試験のスコアをアドミッション・ポリシーとして評価に加えるという部分で、高校にとっては非常に大きな話になるため、また何かの機会に教えていただきたい。

3点目、本会議で伺いたいことは、高校に望むことは何か、ということである。意見としては、評価の効率化について、どんどん調査を行っていいと思う。AIがあるので、分析や考察は以前よりも簡単になり、大学の先生方はいろいろな手法を持っているのでそんなに難しいものではなく、高校の教員がするよりも簡単にできるのではないかと思う。ただ、わたしが大切だと思うのはデータストーリーテリングである。分析結果や考察を組織のメンバーにどう語っ

ていくかが難しいと感じている。

●現在、大学で求められている評価項目が非常に多くて、それに応じて必要と思われる調査分析をひたすらやることになってしまっているところが少し反省点である。授業に関しても学生が履修している科目全部のアンケートに回答しなければならず、学生の負担になっている。複数の調査を一つの調査で回答できるようにするなど効率化を図っていけないか、今検討しているところである。

●高等学校に望むものについて、話はずれるかもしれないが高等教育機関が中等教育機関までに学んだ力を適正に評価しているのかという問題があると思う。日常的に高等学校と大学が接触しながらお互いに高め合っていくことが、打開していく一つの方法だと思う。高大連携は重要視して進めているところであるため、そこから何か解決策を考えていきたい。

○丁寧な説明への謝辞が述べられた。定員の減少について大変驚いている。栄養士にならない学生の理由や意見を聞きたい。また、社会貢献について国家試験の支援講座を行っているとのことで、ずっと続けていただけたらありがたい。学生会員としての参加を希望する。

●定員の減少については、学長の話にもあったように4年制大学への志願傾向があるのかなと思う。栄養士にならない学生については、入学当初から自分の生活の質の向上のために免許取得を希望していたり、家業が食品関係であったり、栄養士ではなく何か食に関する職に就職する学生がいるという現実である。また、給料の面で考える学生がいけないとは言い切れない。管理栄養士の国家試験についても、現在は昼間に開講しており zoom でオンライン参加も可能にしているため遠方の方も参加できるようにしている。昨年度は3名合格し、合格率が全国平均に比べたらかなり高いものになり、参加者や教員の励みになっており、今後も継続して支援を続けていきたい。

●経済状況がよくなり、民間企業に就職したいという学生がかなり増えてきている。中等教育あたりからの意識づけが必要だと思う。

○丁寧な説明への謝辞と3点の意見が述べられた。1点目、最近の子どもは、お互いに話しをする機会を失っていると思う。私たちの職場になると必然的に会話が必要であり、保護者対応等もあるため、コミュニケーションをどうやって育てているのか、と疑問に思ったが先ほどしっかりと行っているという話があったので良かった。

2点目、卒園児の保護者から、実習を当園で希望したが大学から断られたと言われたうえ、求人を大学に出したはずだが求人は出ていないと言われたという事例があったことについて報告があった。

3点目、各施設で受け入れ体制として実習生のマニュアルを作成している。実習生に負担にならないよう作成するので、また何かあればご助言をいただきたい。

●実習生のマニュアルを作成し、均一化されるのはありがたいことである。

○3点の意見が述べられた。1点目、入学者が減少していることについて、大変寂しい気持ちだが、高大連携等で強化していただき、保育士等が増えるようお願いしたい。

2点目、データサイエンス AI 教育プログラムに関して、まだいろいろと改善があるかと思うが、ぜひとも引き続きブラッシュアップしていったほしい。保育×AI というのも今後出てくるのではないかと思うので、個人的に期待をしている。

3点目、保育施設等がたくさんあるが、その中でも多い意見として即戦力となる学生を育成していただき、就職後すぐに活躍していただきたいとの意見がある。実践を踏むことが大事だと思う。保育施設側と大学が協力して、実践に触れ合う機会を増やし、即戦力になる学生が増えていけばいいと思うので、ご検討いただきたい。

●入学者の減少については、非常に大きな問題であるので、学生募集の充実を含め、今取り組んでいる。

●AI 教育については、始めたばかりだが、学生の関心は高い。履修制限があり、データサイエンスに関心があるけど免許資格のための科目を優先しなければならないことがあり、悔しい状況もあるが、引き続き声をかけていきたい。

○初等教育が一番のベースであり、今でも幼稚園の仲間と付き合い、一緒に食事もしている。その中で何が大切かというと、子どもたちの現象は日本のどこも同じであるため、先生方のレベルアップの方向を考える。別府大学は幼稚園から大学までの組織であり、大分県ではこのような組織は別府大学だけであるとの認識をもっているため、誇りをもってもらいたい。今後もバックアップしていきたい。

●意見に対しての謝辞が述べられた。

○大谷翔平選手のマンダラチャートについての紹介があった。

今は受け身の学生や職員が増えており、そういった職員を少しでも減らしたく、自ら考え動くために強い動機がないとなかなか難しいだろうなと思い、この教材を研修で使っている。ぜひ参考にしていきたい。

最後に、先生方においては専門を研究する時間が減少しているのではないかと。今、学校側が学生に一生懸命に対応することが増えている。先生方の時間が限られている中で、研究時間や、健康状態、メンタルについて十分バックアップしていかなければならないと思う。

●大谷翔平選手のマンダラチャートについて、非常に面白いので大学あるいは学生指導にぜひ使わせていただきたい。また、先生方の時間を作るというのは私の仕事だと思う。現在、外部から要請される調査が非常に多く、先生方が本来の教育と研究に費やす時間がかなり少なくなっている。高大連携においても先生方の協力をいただかなければ進められないもの。その中で学内の業務を合理化し、先生方の研究時間をいかに確保するか常々考えている。また理事長の方から企業経営において工夫されていることを教えていただき、ぜひそれを役立てていきたい。

最後に学長から本会議について謝辞が述べられた。いただいたご意見を受け止め、より良い教育につなげていきたい。



(15:40)

<閉会>

配布資料

- (1) 令和6年度別府大学短期大学部学長諮問会議議事録 . . . 資料 1
- (2) 本学の学生と教員の現状 . . . 資料 2
- (3) 令和6年度別府大学短期大学部自己点検・評価報告書 . . . 資料 3
- (4) 別府大学短期大学部教育に関する3つのポリシー . . . 資料 4-1  
別府大学短期大学部カリキュラムマップ . . . 資料 4-2  
別府大学短期大学部アセスメント・ポリシー . . . 資料 4-3  
ディプロマ・サブプリメントについて . . . 資料 4-4
- (5) 令和6年度主な別府大学・別府大学短期大学部地域連携事業の実績について . . . 資料 5-1  
令和6年度地域の課題解決事業成果報告書（大分地域連携プラットフォーム） . . . 資料 5-2
- (6) 令和6年度在学生の修学状況と入試制度について . . . 資料 6
- (7) 学生支援センター活動状況について . . . 資料 7-1  
学生満足度調査報告書（令和6年度実施分） . . . 資料 7-2
- (8) 令和6年度別府大学短期大学部就職状況 . . . 資料 8-1  
保護者のための就職ガイダンス . . . 資料 8-2
- (9) 「数理・データサイエンス AI 教育プログラム」概要 . . . 資料 9-1  
「数理・データサイエンス AI 教育プログラム」に係る自己点検・評価書 . . . 資料 9-2
- (10) 令和6年度別府大学・別府大学短期大学部高大連携の実績について . . . 資料 10
- (11) 参考資料
  - ①大学案内 2026 . . . 資料 11
  - ②ニュースレター . . . 資料 11
  - ③『Be-News』 . . . 資料 11
  - ④短期大学部食物栄養科令和7年度管理栄養士国家試験受験のための支援講座 . . . 資料 11
  - ⑤認定絵本土養成講座チラシ . . . 資料 11
  - ⑥令和7年度別府大学短期大学部における大分県幼児教育センター（教育庁内）  
の委託に係る研修講座日程について . . . 資料 11